



WORLD SKATEBOARDING TOUR
WORLD CUP
KITAKYUSHU
STREET / NOVEMBER 23-30, 2025



ワールドスケートボード ストリート 2025 北九州 - グランドファイナル -

「ワールドスケートボードストリート2025北九州
-グランドファイナル-」
で “7つのエコフレンドリープロジェクト” を展開

～ SEVEN Eco-Friendly PROJECTS ～

ワールドスケートボード北九州大会組織委員会

イントロダクション（目的）

北九州市は、昨年度の国際スポーツ大会、バレーボールネーションズリーグやパルクール世界選手権で、エコとスポーツを掛け合わせた **“エコフレンドリーな大会運営”** を実現した。

ミールチケット導入によるフードロス削減やスティックバルーンのリサイクルなど、エコと地域経済の活性化を同時に実現する取り組みは、まさに “北九州市らしいスポーツイベント” の姿を示したものです。

このたび開催する「ワールドスケートボード ストリート2025北九州—グランドファイナル」においても、これまでの大会運営のノウハウを活かすとともに、環境先進都市北九州市が取り組む循環型社会への移行や再生可能エネルギーの導入推進などを加えた

“7つのエコフレンドリープロジェクト” を展開します。

スポーツをきっかけにまちに賑わいを生み、その賑わいが都市の価値を高め、世界から共感と投資を呼び込む—エコとスポーツの融合を深化させ、北九州市は「稼ぐまち」への転換を力強く進めています。



取組み (SEVEN Eco-Friendly PROJECTS)



IV

Green Access PROJECT
グリーンアクセス
プロジェクト



I

Course Recycling PROJECT
大会コース資源循環
プロジェクト



II

Local Energy Use PROJECT
地域エネルギー活用
プロジェクト



III

Fuel Cell Vehicle Power PROJECT
水素自動車電力供給
プロジェクト



IV

Green Access PROJECT
グリーンアクセス
プロジェクト



V

Bring & Recycle PROJECT
回収リサイクル
プロジェクト



VI

Meal Coupon DX PROJECT
ミールクーポンDX
プロジェクト



VII

Refill Bottle PROJECT
リフィルボトル
プロジェクト



プロジェクト I

Course Recycling PROJECT

大会コース資源循環プロジェクト

大会会場



リサイクル工場



再利用



大会まるごと資源循環

- ・使用した資材や廃棄物を可能な限りリサイクルに回す。
- ・コンクリート・木材・金属類などを分別・再資源化。
- ・コンクリートは再生碎石として再利用。

プロジェクトⅡ

Local Energy Use PROJECT

地域エネルギー活用プロジェクト

北九州市内焼却工場（廃棄物発電）



大会会場（北九州メッセ）



北九州市内で発電された再生可能エネルギーで大会を運営

北九州市の3つの焼却工場で発電された市内産の再生可能エネルギー（ごみ焼却時に発生する高温の蒸気を活用したバイオマス発電）を会場に供給し、カーボンニュートラルな大会運営を実現。

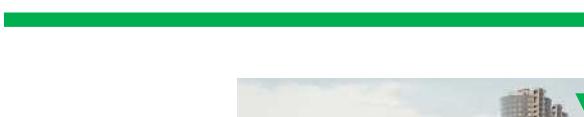
プロジェクトⅢ

Fuel Cell Vehicle Power PROJECT

水素自動車電力供給プロジェクト

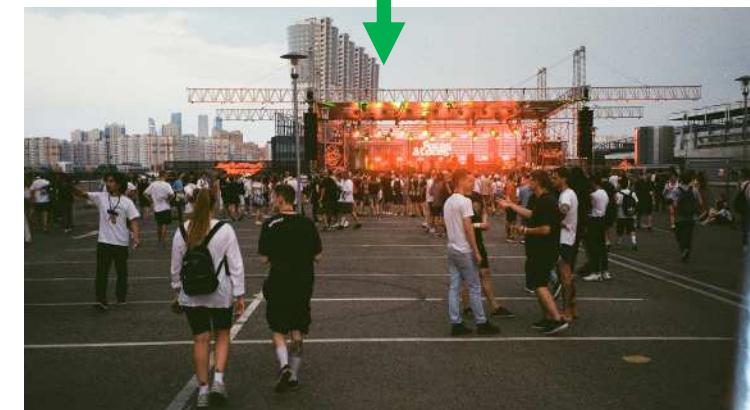


水素自動車



水素で動くイベント

イベントで使用する電源の一部をFCV
(水素で動く燃料電池車) から供給！



プロジェクトIV

Green Access PROJECT

グリーンアクセスプロジェクト



公共交通利用でCO2ゼロ観戦

大会会場



公共交通機関の利用により『環境負荷低減』に貢献！！

～来場者にエコなアクセスを呼びかけ～



プロジェクトV

Bring & Recycle PROJECT

回収リサイクルプロジェクト

持ってくるだけで環境貢献



大会会場前に「古着」と「小型家電」のリサイクル回収ボックスを設置！
回収した古着や小型家電を資源としてリサイクルする。

プロジェクトVI

Meal Coupon DX PROJECT

ミールクーポンDXプロジェクト

ミールクーポン導入



ミールクーポンDX

デジタルに変えるだけ。
大会のムダがひとつ減る。
人手削減による業務効率化(=省エネ化)

フードロス
削減

まちの
回遊性向上

地元への
経済効果



プロジェクトVII

Refill Bottle PROJECT

リフィルボトルプロジェクト

必要な時に、必要な分だけ。
自分たちの給水スタイルが、大会をサステナブルにする。

運営スタッフ・ボランティアへ

「リフィルボトル」を配布

(ペットボトルを削減)

ウォーターサーバーより必要な時に必要な分だけ各自が給水する方式を導入。

